平成29年度重点プロジェクト事業（国際学会発表等旅費）研究成果報告

# 64th Annual Meeting of American College of Sports Medicineにおける研究発表

田屋敷　幸太*

## はじめに

平成29年５月30日～６月３日の日程で，第64回アメリカスポーツ医学会大会（64th Annual Meeting of American College of Sports Medicine; ACSM）がアメリカ合衆国デンバーにて開催された。平成29年度重点プロジェクト事業（国際学会発表等旅費）の助成により，本学会大会においてこれまで我々が行ってきた研究成果の一部を発表する機会を頂いた。本稿では，学会大会の様子および筆者の発表内容について報告する。

## ACSM 学会大会について

ACSM は，世界90か国以上で５万人以上の会員を有する体力・スポーツ医科学分野における世界最大級の学術団体であり，当該領域で確固たる地位を築いている。そのため，学会大会には世界中から体力・スポーツ医科学を研究領域とする研究者や学生，運動指導および実践者等が集まり，研究成果の発表や討論が盛んに行われている。第64回学会大会においても，一般発表に加え著名な研究者のレクチャーやシンポジウムなどの講演があり，朝から夕方まで様々な内容の発表が絶え間なく行われていた。また，一般参加者と思われる人々も多くみられ，会場の至る所で各々の立場や様々な視点から研究に対する討論が行われていた。

当学会大会で発表を行うためには，発表内容に関する事前審査を通過しなければならない。実際に，本学会大会においても，その事前審査を通過できなかった研究が存在していた。

学会会場の外観

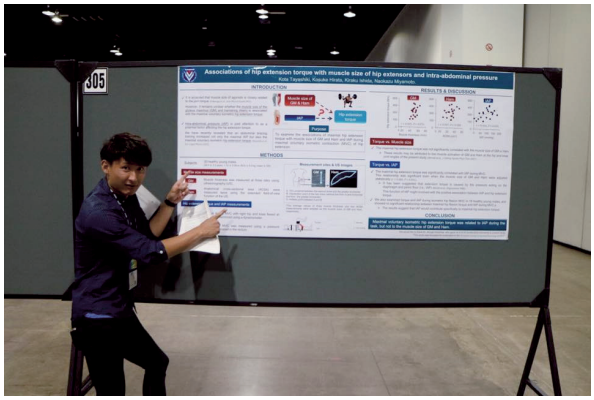
## 研究発表について

筆者は，第64回 ACSM 学会大会の２日目に開催されたポスターセッションにおいて，「Associations of Hip Extension Torque with Muscle Size of Hip Extensors and Intra-abdominal Pressure」というタイトルの研究発表を行った。その内容は，「最大股関節伸展トルクと股関節伸展筋群の筋サイズあるいは腹腔内圧との関係性」について検討したものであり，日常生活動作や競技パフォーマンスの遂行において重要な役割を担うと考えられている股関節伸展筋力の規定要因を明らかにした非常に独自性の高い研究成果である。ポスターセッションでは，発表時間が２時間程度設けられており，その時間内において様々な場所で自由に討論が行われていた。筆者の発表においては，質問者から非常に興味深い内容であるとのコメントを頂くなど，自身の研究内容の位置づけや研究データの有用性を再確認することができた。

## おわりに

本学会大会での研究発表を通して，筆者の研究内容の新規性および独自性を再確認することが出

* 鹿屋体育大学大学院体育学研究科博士後期課程３年




発表ポスターの前で

来た。また，筆者が今後国際的にも活躍する研究者となる為にも，本学会大会への参加および発表は貴重な経験であった。

最後に，本学会大会への参加・発表にご理解とご支援いただいた皆様に，この場をお借りし感謝の意を表します。